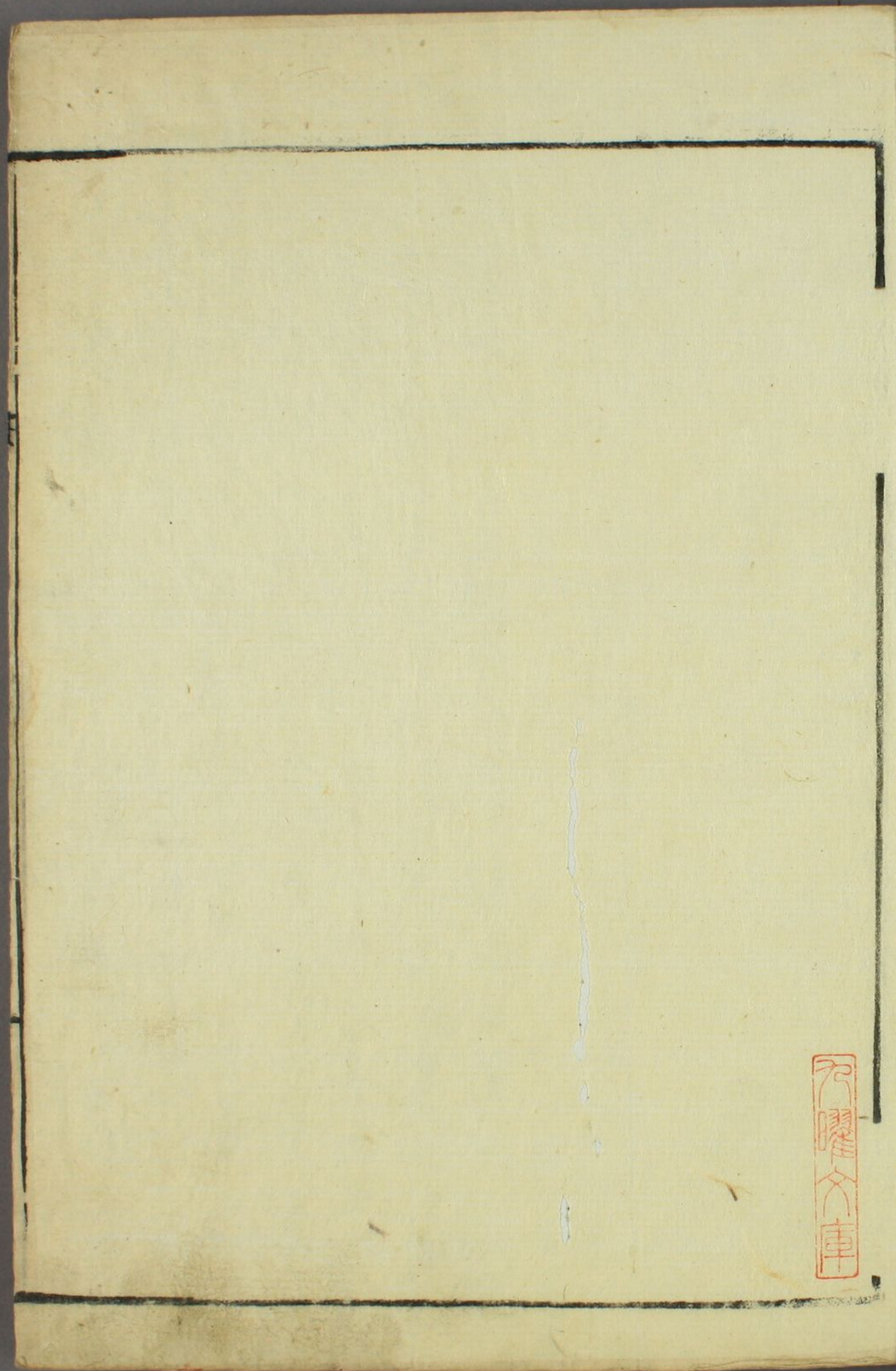


湖月鈔
あし





石渠文庫



葵 卷の名款とて号なりしや人のきせらるるやひ

源氏女一筆より九二筆の四月に

の事あり花の宴乃卷より十九歳の三月とあり表巻の右より十

九歳の四月より女腕の年中の事ありわたり此より朱雀院乃

受孫冷泉院の立場弘徽殿の大倉斎ま斎院のト定源氏

に注大花よりすすりし花をよふありし

世の中りて 何 相盒の帝位

とさうせたりや 和日巻を

は相盒の山位と朱雀院へゆつり

多ふよやく成幸花宴時年より

ぞは去年のよりかしく一書葉

の卷を巻よこしとわりおま

まひる人のゆづひちらくと

われどもちて年花の宴に

夜林のよりえと

はうの地へ 相朱雀院の

代後まれば源の文帝の南代

みまかりさ故よりうの中を

はゆりやうふとけれす

とく 相盒は在位の内入

やうに源のうらりちあふ

うらりちあふ 師保氏のん

とまま地よりあり

はゆりやうふとけれす

はゆりやうふとけれす

はゆりやうふとけれす

世の中りて 何 相盒の帝位

とさうせたりや 和日巻を

は相盒の山位と朱雀院へゆつり

多ふよやく成幸花宴時年より

ぞは去年のよりかしく一書葉

の卷を巻よこしとわりおま

まひる人のゆづひちらくと

われどもちて年花の宴に

夜林のよりえと

はうの地へ 相朱雀院の

代後まれば源の文帝の南代

みまかりさ故よりうの中を

はゆりやうふとけれす

とく 相盒は在位の内入

やうに源のうらりちあふ

うらりちあふ 師保氏のん

とまま地よりあり

はゆりやうふとけれす

はゆりやうふとけれす

はゆりやうふとけれす

年三月廿七日任奉哉同四
月三日兼光大將一何

わさうの娘也 細植園乃
 或アバの女也つたよははなほ
 此の娘のよき娘なりし人
 のさうのよき娘なりし人
 一の内代貞女也 権坂君と空
 標とく

さうの娘也 細植園乃
 或アバの女也つたよははなほ
 此の娘のよき娘なりし人
 のさうのよき娘なりし人
 一の内代貞女也 権坂君と空
 標とく

細御息所
 細御息所のよき娘なりし人
 一の内代貞女也 権坂君と空
 標とく

河嵯峨天皇弘仁元

年置 敬院司 以皇女有智

内親王 母交野 為 芥子

延喜神事式云天皇崩

位定賀茂太神齐王仍簡

内親王未嫁者卜定

花今葉林茂乃後奉先卜

定ありて是乃のよき娘と

みそさげさるるては初

命院へ入るゆゆさうといふ内

の衣服被或乃近府とて

延平てそれにて三年潔

斎のするも

細弘徽殿の

所服花裏より裳下

わびし人なりて 林は茂の

内服してやりて

おろしきよ女もかき 細御

は立派ゆゆ神のちかきよ

てはつとあるしとて 並潔斎

もて人らと歌よるれに別

よまはし人なりとこれよ立派

まりののれく 並さすれ

さうの上たさるとをへるふ

あ...さうの娘也 細植園乃

あ...さうの娘也 細植園乃

あ...さうの娘也 細植園乃

あ...さうの娘也 細植園乃

あ...さうの娘也 細植園乃

あ...さうの娘也 細植園乃

あ...さうの娘也 細植園乃

あ...さうの娘也 細植園乃

あ...さうの娘也 細植園乃

あ...さうの娘也 細植園乃

河嵯峨天皇弘仁元

年置 敬院司 以皇女有智

内親王 母交野 為 芥子

延喜神事式云天皇崩

位定賀茂太神齐王仍簡

内親王未嫁者卜定

花今葉林茂乃後奉先卜

定ありて是乃のよき娘と

みそさげさるるては初

命院へ入るゆゆさうといふ内

の衣服被或乃近府とて

延平てそれにて三年潔

斎のするも

細弘徽殿の

所服花裏より裳下

わびし人なりて 林は茂の

内服してやりて

おろしきよ女もかき 細御

は立派ゆゆ神のちかきよ

てはつとあるしとて 並潔斎

もて人らと歌よるれに別

よまはし人なりとこれよ立派

まりののれく 並さすれ

さうの上たさるとをへるふ

それ等今と有りて
ふかそくふくめ
まぬかりくど妙
人よき人 後国に記

後記有此人名車
ハ葉野也 花車と六公方
ハリ懸てとれて
ひし人結とる
より車人よき
よさくゆか
ハ葉とる
より車

ハ葉とる
より車
ハ葉とる
より車
ハ葉とる
より車

車だとすつてけり
ハ葉とる
より車

ハ葉とる
より車
ハ葉とる
より車
ハ葉とる
より車

ハ葉とる
より車
ハ葉とる
より車
ハ葉とる
より車

ハ葉とる
より車
ハ葉とる
より車
ハ葉とる
より車

ハ葉とる
より車
ハ葉とる
より車
ハ葉とる
より車

けりとの 細い息木のつぎ

世今日の事の縁を呼まは

西の保はとハ初の人久あは

保ははさむ可きこととてあ

目録各院ありてさきとてあ

久あはとあ人の前とてあ

りて前の人とてあまは

まわらねえとてあ約のまは

つとあやかり 花めものま

らんうさりの文とてあま

りてあまはとてあまは

ひのまあやハあやハささあ

紫のちりこととてあまは

らんうさり

る将のけりの保身は 河うりの

保身はけりは其日けりけり

云んく 花はさす才の歌を

之保身もさすやうなまは

けりの保身とてあハ一員も

るはくさく 左衛門のお監お

曹府生と二人つくりそめ

うけりてててててて

つとててててててて

一人つくりててててて

とてててててててて

奥まらと一員とててて

上の花人のお監とてて

監お曹と幸陣よ伏せとて

ハ一院の御心おとてて

保はとあまのあまのあま

監と兼友の人也 細花

況や殿上の花人とてて

石道務人のそと 細花

の萩の足才之 師 伴

子也故は決ア保のそと

へまのりててててて

なうやわらり

小息木

けりとの事とてあまは

保ははさむ可きこととてあ

目録各院ありてさきとてあ

久あはとあ人の前とてあ

りて前の人とてあまは

まわらねえとてあ約のまは

つとあやかり 花めものま

らんうさりの文とてあま

りてあまはとてあまは

ひのまあやハあやハささあ

紫のちりこととてあまは

らんうさり

る将のけりの保身は 河うりの

保身はけりは其日けりけり

云んく 花はさす才の歌を

之保身もさすやうなまは

けりの保身とてあハ一員も

るはくさく 左衛門のお監お

曹府生と二人つくりそめ

うけりてててててて

つとててててててて

一人つくりててててて

とてててててててて

奥まらと一員とててて

上の花人のお監とてて

監お曹と幸陣よ伏せとて

ハ一院の御心おとてて

保はとあまのあまのあま

監と兼友の人也 細花

況や殿上の花人とてて

石道務人のそと 細花

の萩の足才之 師 伴

子也故は決ア保のそと

へまのりててててて

その保の事

小息木の車

けりとの事とてあまは

保ははさむ可きこととてあ

目録各院ありてさきとてあ

久あはとあ人の前とてあ

りて前の人とてあまは

まわらねえとてあ約のまは

つとあやかり 花めものま

らんうさりの文とてあま

りてあまはとてあまは

ひのまあやハあやハささあ

紫のちりこととてあまは

らんうさり

る将のけりの保身は 河うりの

保身はけりは其日けりけり

云んく 花はさす才の歌を

之保身もさすやうなまは

けりの保身とてあハ一員も

るはくさく 左衛門のお監お

曹府生と二人つくりそめ

うけりてててててて

つとててててててて

一人つくりててててて

とてててててててて

奥まらと一員とててて

上の花人のお監とてて

監お曹と幸陣よ伏せとて

ハ一院の御心おとてて

保はとあまのあまのあま

監と兼友の人也 細花

況や殿上の花人とてて

石道務人のそと 細花

の萩の足才之 師 伴

子也故は決ア保のそと

へまのりててててて

孝子

孝子

けりとの事とてあまは

保ははさむ可きこととてあ

目録各院ありてさきとてあ

久あはとあ人の前とてあ

りて前の人とてあまは

まわらねえとてあ約のまは

つとあやかり 花めものま

らんうさりの文とてあま

りてあまはとてあまは

ひのまあやハあやハささあ

紫のちりこととてあまは

らんうさり

る将のけりの保身は 河うりの

保身はけりは其日けりけり

云んく 花はさす才の歌を

之保身もさすやうなまは

けりの保身とてあハ一員も

るはくさく 左衛門のお監お

曹府生と二人つくりそめ

うけりてててててて

つとててててててて

一人つくりててててて

とてててててててて

奥まらと一員とててて

上の花人のお監とてて

監お曹と幸陣よ伏せとて

ハ一院の御心おとてて

保はとあまのあまのあま

監と兼友の人也 細花

況や殿上の花人とてて

石道務人のそと 細花

の萩の足才之 師 伴

子也故は決ア保のそと

へまのりててててて

たり女をつかきとくくるとんくくの日 孟津よつやお茶末の衣つやわらんくと入る太府迄之
まて侍長つやわらるといお茶もつら小袖の中人のあはつまとおけてえよるさじくは 馬が能々
松葉谷よまらるゝはりのつやわらるとくくくくく人のつやまらるゝを
女つゝのつやわらるとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
團へり美子を切さくつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝと
例はわらるとよ 細老女かしの名物あつらふのつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝと
伊保とんとて思てあつらふれおとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

細老女もつや茶末のかりく
盃つやわらるとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝと
入るゝわらると 細老女もつや
宋朝よ司馬相如とる一季
の洛中に入一討はもとる
のよと額よ加ふとくく
細老女とくくくくくくくく
まて思あわやつゝとつゝ
一はつらとつゝとつゝとつゝ
もりうへ一司馬温云つや
也相如ハ漢の代乃人ハ公の
まておのよよ強きつや
通監も宋朝通監あや
司馬光赴阙衛士以手加
額曰此司馬相公也

何よ大鏡よ二条院ま日影幸に涉輿よるまよひのせよとよ一田舎に氏而性まてく并
佛のやうり割よ多と食くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
まてとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝと
まて思あわやつゝとつゝ
一はつらとつゝとつゝとつゝ
もりうへ一司馬温云つや
也相如ハ漢の代乃人ハ公の
まておのよよ強きつや
通監も宋朝通監あや
司馬光赴阙衛士以手加
額曰此司馬相公也

細老女もつや茶末のかりく
盃つやわらるとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝと
入るゝわらると 細老女もつや
宋朝よ司馬相如とる一季
の洛中に入一討はもとる
のよと額よ加ふとくく
細老女とくくくくくくくく
まて思あわやつゝとつゝ
一はつらとつゝとつゝとつゝ
もりうへ一司馬温云つや
也相如ハ漢の代乃人ハ公の
まておのよよ強きつや
通監も宋朝通監あや
司馬光赴阙衛士以手加
額曰此司馬相公也

何よ大鏡よ二条院ま日影幸に涉輿よるまよひのせよとよ一田舎に氏而性まてく并
佛のやうり割よ多と食くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
まてとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝと
まて思あわやつゝとつゝ
一はつらとつゝとつゝとつゝ
もりうへ一司馬温云つや
也相如ハ漢の代乃人ハ公の
まておのよよ強きつや
通監も宋朝通監あや
司馬光赴阙衛士以手加
額曰此司馬相公也

細老女もつや茶末のかりく
盃つやわらるとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝと
入るゝわらると 細老女もつや
宋朝よ司馬相如とる一季
の洛中に入一討はもとる
のよと額よ加ふとくく
細老女とくくくくくくくく
まて思あわやつゝとつゝ
一はつらとつゝとつゝとつゝ
もりうへ一司馬温云つや
也相如ハ漢の代乃人ハ公の
まておのよよ強きつや
通監も宋朝通監あや
司馬光赴阙衛士以手加
額曰此司馬相公也

ひさしうそきつしきまらう
とく髪をさかすまらうと
ひくよなりしと

細推百天皇十二年甲子正月
戊午朔始用曆ヲ

其の女房にてねとて 伊予
と女房にてすのやとのひ

又いてねとのひの若童のす
とされてのまふくおられ

紫の方の女房よりとりか
してあふらうととあはれん

とぬし 細今日係と女車
みくおあへさく

うさかんの人のうぬぬ 細童
女のとりつくりのうぬぬ

花もよみくくり 河津路綿織
のうぬぬわらうのうぬぬ

紫の巻よとありき
糸西文と女親玉對面

解者着汗松半臂下襲
表袴玉帯等又齊官齊

院童女者總角青麴壁
汗衫半臂下襲表袴白

柳帯今糸重女晴時杉
袴上表袴とさううさ文

葉三散世の帯よ表袴
不着と

そらりかき 細 冠言河海の
冠もゆるく 細

の奥は海松と羽りき
花うが十一袋のうぬぬ

さうのえとつりつり
やうとさうとさうとさうと

各の中は海松とさうとさうと
あくとあり 碁盤 山栴海

松青目の名二重之也 じま
と沖登よんさうとさうと

ちのちとも 花原の若み尋
と流いのよは付て定か

心とみらのうぬぬとさうと
の海も定か

細みらのうぬぬとさうと
さうとさうとさうと

くやうとさうとさうと
ひまのうぬぬ 細

る佛ハ二条西門院をまら
ハ二条大まら 花

わてまひてひさしうそきつしき
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

わてまひてひさしうそきつしき
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

まらうとさうとさうと
まらうとさうとさうと

ねむるぬ身とて夢うりく 時 保氏 ありまのて五人侍ま候の物 保 山下とて海をけ

いとていれりまの 保 車あつてさひの日の 孟月 細河 大 堂金の所候とてその所候とてとよ

いふれまの 保 車あつてさひの日の 孟月 細河 大 堂金の所候とてその所候とてとよ

いふれまの 保 車あつてさひの日の 孟月 細河 大 堂金の所候とてその所候とてとよ

いふれまの 保 車あつてさひの日の 孟月 細河 大 堂金の所候とてその所候とてとよ

いふれまの 保 車あつてさひの日の 孟月 細河 大 堂金の所候とてその所候とてとよ

いふれまの 保 車あつてさひの日の 孟月 細河 大 堂金の所候とてその所候とてとよ

いふれまの 保 車あつてさひの日の 孟月 細河 大 堂金の所候とてその所候とてとよ

いふれまの 保 車あつてさひの日の 孟月 細河 大 堂金の所候とてその所候とてとよ

仙客 窮鬼故識入 注 人 夢

魂 與 鬼 通 言 我 心 中 心 境

此 十 娘 怨 向 夢 見 権 忽

此 鬼 作 夢 誰 我 故 罰 之 日

窮 鬼 也 韓 退 之 窮 鬼 八

ふ ち 留 之 韓 生 聖 也 注

孟 月

孟 月

孟 月

孟 月

孟 月

孟 月

孟 月

孟 月

孟 月

孟 月

孟 月

孟 月

孟 月

孟 月

孟 月

こりりいーいーい
細くおの美まのわがけ
おの美まの十倉のま

このまーいーい
お夕音
又冷泉は似まのま
おの美まのま
けりーいー
まーいーい
まよりくおのわ
まーいーい

まーいーい
お夕音
又冷泉は似まのま
おの美まのま
けりーいー
まーいーい

まーいーい
お夕音
又冷泉は似まのま
おの美まのま
けりーいー
まーいーい

まーいーい
お夕音
又冷泉は似まのま
おの美まのま
けりーいー
まーいーい

まーいーい
お夕音
又冷泉は似まのま
おの美まのま
けりーいー
まーいーい

まーいーい
お夕音
又冷泉は似まのま
おの美まのま
けりーいー
まーいーい

まーいーい
お夕音
又冷泉は似まのま
おの美まのま
けりーいー
まーいーい

りやの... 細... 八尋大熊... 神... 又日本記... 又八尋大熊... 神... 又日本記... 又八尋大熊...

とこ... 細... 八尋大熊... 神... 又日本記... 又八尋大熊... 神... 又日本記... 又八尋大熊...

の... 細... 八尋大熊... 神... 又日本記... 又八尋大熊... 神... 又日本記... 又八尋大熊...

は... 細... 八尋大熊... 神... 又日本記... 又八尋大熊... 神... 又日本記... 又八尋大熊...

は... 細... 八尋大熊... 神... 又日本記... 又八尋大熊... 神... 又日本記... 又八尋大熊...

かめめよるんか 細まき
比并してつりり 孟尺まの

細の人のむらさき

細くはるさきとくくを反
不^レ多^ク於^テ奥^ニ入^リ去^リ非^レ本^文文^云え
塞^之袖^上珊瑚^とまるあ
日^時切^{なり}ひな^りく

可^レくよはれあき

あめひまふうあくる日
孟^孫よりとらさき

うのまを 平^ハ女^々の屋^々
のほろ

八月は諸司に

入^まつここま中^にた^る内^の

伝^言入^入多^きと延^引る

とま^る有^るあ^の引^入る

み^まれ^るく^やあり^しを

あ^はる^さ河^九衛^門府^の

近^衛以^小菰^以兼^廳

屋^とあり^た兼^兼

あ^はる^さ河^九衛^門府^の

かめめよるんか 細まき
比并してつりり 孟尺まの

細の人のむらさき

細くはるさきとくくを反
不^レ多^ク於^テ奥^ニ入^リ去^リ非^レ本^文文^云え
塞^之袖^上珊瑚^とまるあ
日^時切^{なり}ひな^りく

可^レくよはれあき

あめひまふうあくる日
孟^孫よりとらさき

うのまを 平^ハ女^々の屋^々
のほろ

八月は諸司に

入^まつここま中^にた^る内^の

伝^言入^入多^きと延^引る

とま^る有^るあ^の引^入る

み^まれ^るく^やあり^しを

あ^はる^さ河^九衛^門府^の

近^衛以^小菰^以兼^廳

屋^とあり^た兼^兼

あ^はる^さ河^九衛^門府^の

かめめよるんか 細まき
比并してつりり 孟尺まの

細の人のむらさき

細くはるさきとくくを反
不^レ多^ク於^テ奥^ニ入^リ去^リ非^レ本^文文^云え
塞^之袖^上珊瑚^とまるあ
日^時切^{なり}ひな^りく

可^レくよはれあき

あめひまふうあくる日
孟^孫よりとらさき

うのまを 平^ハ女^々の屋^々
のほろ

八月は諸司に

入^まつここま中^にた^る内^の

伝^言入^入多^きと延^引る

とま^る有^るあ^の引^入る

み^まれ^るく^やあり^しを

あ^はる^さ河^九衛^門府^の

近^衛以^小菰^以兼^廳

屋^とあり^た兼^兼

あ^はる^さ河^九衛^門府^の

かめめよるんか 細まき
比并してつりり 孟尺まの

細の人のむらさき

細くはるさきとくくを反
不^レ多^ク於^テ奥^ニ入^リ去^リ非^レ本^文文^云え
塞^之袖^上珊瑚^とまるあ
日^時切^{なり}ひな^りく

可^レくよはれあき

あめひまふうあくる日
孟^孫よりとらさき

うのまを 平^ハ女^々の屋^々
のほろ

八月は諸司に

入^まつここま中^にた^る内^の

伝^言入^入多^きと延^引る

とま^る有^るあ^の引^入る

み^まれ^るく^やあり^しを

あ^はる^さ河^九衛^門府^の

近^衛以^小菰^以兼^廳

かめめよるんか 細まき
比并してつりり 孟尺まの

細の人のむらさき

細くはるさきとくくを反
不^レ多^ク於^テ奥^ニ入^リ去^リ非^レ本^文文^云え
塞^之袖^上珊瑚^とまるあ
日^時切^{なり}ひな^りく

可^レくよはれあき

あめひまふうあくる日
孟^孫よりとらさき

うのまを 平^ハ女^々の屋^々
のほろ

八月は諸司に

入^まつここま中^にた^る内^の

伝^言入^入多^きと延^引る

とま^る有^るあ^の引^入る

み^まれ^るく^やあり^しを

あ^はる^さ河^九衛^門府^の

かめめよるんか 細まき
比并してつりり 孟尺まの

細の人のむらさき

細くはるさきとくくを反
不^レ多^ク於^テ奥^ニ入^リ去^リ非^レ本^文文^云え
塞^之袖^上珊瑚^とまるあ
日^時切^{なり}ひな^りく

可^レくよはれあき

あめひまふうあくる日
孟^孫よりとらさき

うのまを 平^ハ女^々の屋^々
のほろ

八月は諸司に

入^まつここま中^にた^る内^の

伝^言入^入多^きと延^引る

とま^る有^るあ^の引^入る

み^まれ^るく^やあり^しを

あ^はる^さ河^九衛^門府^の

の奇あまのむらよす^り表
のうららんやうらうら
あまのむらよす^り表
あまのむらよす^り表

^{細末用と}
あまのむらよす^り表

^{細末用と}
あまのむらよす^り表

^{細末用と}
あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

あまのむらよす^り表

みわるとに傍く内位と
 一もつと念比より後
 とも自然度の事ゆゑ
 つけまわつての事
 かく春りのまゝり
 まりの大くこの世よつて
 かか息をささていよ
 いらりまゝとらふ
 ひらりなつて
 細うてあつて
 孟西島前より
 くれまふ
 野史のれり
 細 後目より世の
 かしはまはる
 一あつて人
 かせなる

まてしむらひ^{相帯}
 あまのこ^{内位}
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後

五月 細 五日 早九日
 のり
 ちまひ

ちまひ
 のり
 ちまひ
 のり
 ちまひ
 のり
 ちまひ
 のり
 ちまひ
 のり
 ちまひ
 のり
 ちまひ
 のり

まてしむらひ^{相帯}
 あまのこ^{内位}
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後
 せむい^後
 けむい^後

信下末の中にも

細い面白白中筋のさまふ
 終りて大か入り多あり
 孟は楽勝不見え十月

りりまこ交とゆりて人か
 せせせれん いれり
 若りかさかはやなれたん

とこ交と色 いれり
 師 いれり
 てもれおる物と能無月

の いれり
 葉うれの孟々方と葉乃

形 いれり
 院内阮茶うれハ葉のり

と いれり
 こハタ方わけ林葉の

り いれり
 細葉上

り いれり
 細葉上

り いれり
 細葉上

終りてありと いれり
 小い いれり
 とわら いれり
 ところ いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

ら いれり
 よ いれり
 たら いれり
 こ いれり
 たら いれり
 の いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らん いれり

らなつて人お夢のゆくせどとも
合はさるるなれど
いふは五よは死なばや
院の上童よはるあり

わてし 孟夢の友女をわ
あはれ 日花に上東門
院の上童よはるあり
わてし 孟夢の友女をわ
あはれ 日花に上東門
院の上童よはるあり

う世の名あ 夢の時
あまのうららのうらら
つとみい
まふあつた
そよほ思まへ
細い
あまのうららのうらら
つとみい
まふあつた
そよほ思まへ

細手
いふは五よは死なばや
院の上童よはるあり
わてし 孟夢の友女をわ
あはれ 日花に上東門
院の上童よはるあり

をうそとあめ
く人ねな
ぐかん
あまのうららのうらら
つとみい
まふあつた
そよほ思まへ

よつひのつりよはうと
あつりしを細中くの細
師大舟のうまよふ老の
後いぼりうまよふ老の
傷よまて切らまきさ
くめは陸まきまきま
くりりまよまきまき
まきま

とよびとひとびとびと
あつりしを細中くの細
師大舟のうまよふ老の
後いぼりうまよふ老の
傷よまて切らまきさ
くめは陸まきまきま
くりりまよまきまき
まきま

あつりしを細中くの細
師大舟のうまよふ老の
後いぼりうまよふ老の
傷よまて切らまきさ
くめは陸まきまきま
くりりまよまきまき
まきま
あつりしを細中くの細
師大舟のうまよふ老の
後いぼりうまよふ老の
傷よまて切らまきさ
くめは陸まきまきま
くりりまよまきまき
まきま

あつりしを細中くの細
師大舟のうまよふ老の
後いぼりうまよふ老の
傷よまて切らまきさ
くめは陸まきまきま
くりりまよまきまき
まきま

あつりしを細中くの細
師大舟のうまよふ老の
後いぼりうまよふ老の
傷よまて切らまきさ
くめは陸まきまきま
くりりまよまきまき
まきま

あつりしを細中くの細
師大舟のうまよふ老の
後いぼりうまよふ老の
傷よまて切らまきさ
くめは陸まきまきま
くりりまよまきまき
まきま
あつりしを細中くの細
師大舟のうまよふ老の
後いぼりうまよふ老の
傷よまて切らまきさ
くめは陸まきまきま
くりりまよまきまき
まきま

よきつらりよきつらり
原の今日かきよきつらり
の〇うよきつらりよきつらり

細原の夢上のほうよきつらり
けしきよきつらりよきつらり
一〇〇 細原と夢よきつらり

けしきよきつらりよきつらり
細原の夢上のほうよきつらり
けしきよきつらりよきつらり
一〇〇 細原と夢よきつらり

よきつらりよきつらり
けしきよきつらりよきつらり
細原の夢上のほうよきつらり
けしきよきつらりよきつらり
一〇〇 細原と夢よきつらり

よきつらりよきつらり
けしきよきつらりよきつらり
細原の夢上のほうよきつらり
けしきよきつらりよきつらり
一〇〇 細原と夢よきつらり

あつらひしつらりよきつらり
けしきよきつらりよきつらり
細原の夢上のほうよきつらり
けしきよきつらりよきつらり
一〇〇 細原と夢よきつらり

あつらひしつらりよきつらり
けしきよきつらりよきつらり
細原の夢上のほうよきつらり
けしきよきつらりよきつらり
一〇〇 細原と夢よきつらり

多きてしりて
田は田舎をへりうらな
多きてふんをうけり
罪回

うぬつらよまわり
師考よまら者盡へは保の
らよ然あれは夢のよま
よりそきては神とぬら
しりて

りんのうのゆそ 細腰服
也 兼衣紋袍、其穀を平
結、久の常の袍のより冠
もを紋、兼腰服、えんこ
しりて

罪回云云文の冠其後為
一各々の冠ハ文羅、
服若ハ文の羅と用と
並同

うれしくもゆきまきけ
さうじ 罪原氏の内
こころ不と足路よつけ
ても兼上の方にはまり
しん、のふとせり

あのみまらひしりて
細腰上々の女唐進の
かりりてま
細腰上々の女唐進の
八月より十月までと
余服し終へさこま、
は兼何何除服いそれり
後りりて、是は其路へ
あり終り衣業と名改
まかると
衣ののれまらひ
河十月衣衣の内装
師業の右の前まら
しりて
細腰上々の女唐進の
心りてまらひか細
細腰上々の女唐進の

世のいしりて
いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて

いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて

いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて

いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて

いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて

いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて

いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて

いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて

いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて

いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて
いしりていしりて

細腰上々の女唐進の
細腰上々の女唐進の
細腰上々の女唐進の
細腰上々の女唐進の

人はいまうめのふり

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの
あけののちまたの
あけののちまたの

あけののちまたの
あけののちまたの
あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

あけののちまたの

おほのかりりりりりり
くほのれりりりり

さらりりりりりりりりりり
ほりりりりりりりりりり
おほのかりりりりりりりり
くほのれりりりりりりりり
さらりりりりりりりりりり
ほりりりりりりりりりり
おほのかりりりりりりりり
くほのれりりりりりりりり

もくろ 細りや衣架
也 明礼記内則男女不
同施扱法云掉此謂衣
架河極架冠喜式御衣
架也

中くやんちあてあまひ
ほのかつせーねりりりりり
とほりりりりりりりりり
おほの装束とてええええ
ひきききききききききき
細今日元三の用とてし
またいつくせとてええええ
かきききききききききき
ひきききききききききき

さらりりりりりりりりりり
ほりりりりりりりりりり
おほのかりりりりりりりり
くほのれりりりりりりりり

さらりりりりりりりりりり
ほりりりりりりりりりり
おほのかりりりりりりりり
くほのれりりりりりりりり

さらりりりりりりりりりり
ほりりりりりりりりりり
おほのかりりりりりりりり
くほのれりりりりりりりり

れいめやまよまろけりりりりりり
ほの衣架ようびりりり
さらりりりりりりりりりり
おほの装束とてええええ
ひきききききききききき
細今日元三の用とてし
またいつくせとてええええ
かきききききききききき
ひきききききききききき

さらさらと今迄の山装束
 とおのこふまふ細
 まやまわりとも細
 こやうくももる細
 しくわつこいへり
 せのまわらわると書ぞ時
 味ひ奇お苗せらなえしど
 祝のちとのまふ細
 の娘よえんまのえんの
 申ももわらん細
 ありこり細
 去年にうつり細
 わりし細
 表傷面よハ赤あしてぬ
 いつとく養上ののまふ細
 わり申せ年のはり細
 ころもく海のとまり細
 ころわらんのとことけて
 下に養のふわり
 まらう細
 孟婆子地ハ赤あしてぬ
 も大まもふ細
 移入ドもふ細
 らん細

てさう人まふ細
 われまふとらう細
 わらともまふ細
 りりゆりつれど細
 どもゆりてえ細
 わら細
 てと海細
 めねとゆ細
 わら細
 わらん細
 小をわら細

孟婆子地ハ赤あしてぬ
 も大まもふ細
 移入ドもふ細
 らん細

